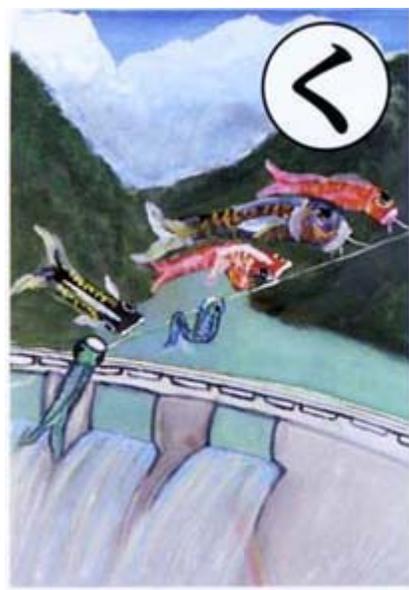
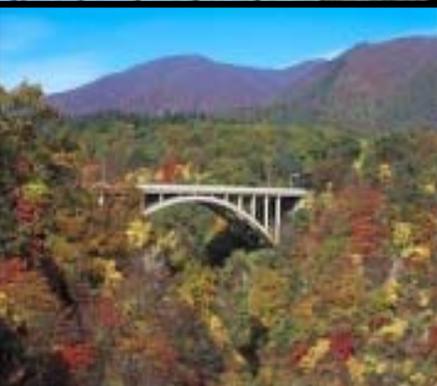


鳴子ダム水源地域ビジョン
第4回策定委員会資料

平成17年12月27日（火）

資料 - 2 専門検討会の経過に係る資料



鳴子ダム

鯉のぼり舞う

薰風くんぷうに

日本人の手によって出来た国内最初のアーチ式ダム。昭和三十二年の完成以来、洪水の心配は全くなかった。観光スポットとしてもすばらしい。上流には『荒雄湖畔公園』が整備され、様々なイベントで賑わっている。

「薰風くんぷうに
鯉のぼり舞う 鳴子ダム」

鳴子ダム水源地域ビジョン専門検討会の経過

	第1回専門検討会	第2回専門検討会	第3回専門検討会
開催	日時:平成17年7月29日(金) 場所:鳴子ビューホテルかねちゅう	日時:平成17年10月6日(木) 場所:鳴子ビューホテルかねちゅう	日時:平成17年11月9日(水) 場所:鳴子ビューホテルかねちゅう
議事	(1)鳴子ダム水源地域ビジョン(骨子)について (2)ビジョン推進のための役割分担、連携・交流の仕組みについて	(1)鳴子ダム水源地域ビジョンの進め方 (2)ビジョン推進のための組織づくり、連携・交流の仕組みについて	(1)鳴子ダム水源地域ビジョンの進め方 (2)ビジョン推進のための組織づくり、連携・交流の仕組みについて
協議内容	(1)ビジョンの骨子 (2)交流と連携の仕組みづくり (3)鳴子ならではのグリーンツーリズムをたちあげ観光と連携 (4)地域食材を使った取り組みを (5)江合川・ダム湖の活用 (6)江合川上下流の連携を (7)鬼首中学校の今後を考える (8)広報や情報発信について	(1)ビジョンの基本理念 (2)ビジョンの推進について 1)既存組織やそれぞれのつながりについて 2)ビジョン推進の活動について 推進組織のあり方 ビジョンの応援、推進による交流・連携 3)事務局などの運営 4)地域を元気にするために (3)その他 1)荒雄川神社祭典など地域密着の行事 2)イベントにテーマ性をもたせる	(1)ビジョンの基本理念 (2)ビジョンの推進について 1)取り組み 2)交流・連携 3)サポーター 4)事務局 5)広報 6)鳴子ダムのかかわり (3)その他 1)釜房ダムの「100年ビジョンかわさき」 2)四国地方の(株)四万十ドラマ

鳴子ダム水源地域ビジョン 第1回専門検討会

日時：平成17年7月29日（金）11：00～14：00

場所：鳴子ビューホテルかねちゅう

「鳴子ダム水源地域ビジョン骨子（案）」と「交流と連携の仕組みづくり」を中心に意見交換が行われました。また、鳴子ダム水源地域ビジョン策定後の方向性についても活発な議論が行われました。

今回は「鳴子ならではのグリーンツーリズムの立ち上げ」「鬼首中学校の今後を考える」など、意見がもつに集約されました。

専門検討会は、ビジョンづくりの検討組織で、ビジョン骨子・交流連携方策、ビジョン推進について検討し、策定委員会に素案を示します。

鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念（中間案）

豊饒なる大崎の耕土をうるおす江合川のながれ、緑たゆとう自然、鬼首の文化・風土をいかし、多彩で魅力的な活動、地域内外との交流・連携により、環境に調和した持続的な水源地域のまちづくりをすすめる。（専門検討会資料より）

専門検討会のようす

参加者の意見の概要

鳴子ダム水源地域ビジョンの骨子案

- ・大崎市における鳴子、水源地域というポジションを明確にする。
- ・計画づくりも重要だが展開していくことがさらに重要。
- ・活動が縛られない組織づくりも必要。

交流と連携の仕組みづくり

- ・地域活動者相互の横断的な連携が必要。
- ・地域外から応援団として参加してもらう。

鳴子ならではのグリーンツーリズムをたちあげ、観光と連携

- ・グリーンツーリズムと温泉宿泊を組み合わせたパッケージで農業と観光相互の連携を図る。
- ・旅館のコース（需要）と農林業のシーズ（供給）を調整し流通ルートをつくる。

地域食材を使った取り組みを

- ・そば、ブルーベリーなど地元食材を使ってしかけていく。
- ・湯治客の健康食材パックに地元食材を利用。
- ・県内一美味しい豚肉を地域ブランドにする。

江合川・ダム湖の活用

- ・初心者が楽しめる溪流釣りリゾートをつくる。
- ・発眼卵放流など鬼首独自の釣りの形態を確立する。

江合川上下流の連携を

- ・水源地域は江合川流域全体の共有財産。
- ・上下流が連動するプログラムをつくる。
- ・下流地域の特徴（岩出山の歴史風土や古川の農業など）をビジョンに反映する。

鬼首中学校の今後を考える

- ・今後のあり方について広く意見交換し、利用するのであればその目的をハッキリさせ、検討組織をたちあげる。
- ・山村学校、山学校として、蔓（つる）編みや田んぼ、畑を利用して活動する。

広報や情報発信について

- ・鳴子温泉駅にインフォメーションコーナーを設置。
- ・岩出山の道の駅や鬼っ子などからも情報発信する。
- ・ホームページ相互にリンクを貼り情報の一元化を図る。
- ・かわら版は継続して発行。ビジョンを町の広報誌にも掲載する。

基本目標

基本方針

地域を元気にする	地域づくりの意識で地域の活性化を目指す
	業おこしにより地域の活性化を目指す
	地域の施設を活用する
	地域の環境を活用する
地域を学習する	地域をよく知り地域力を高める
	ダムと自然・農業の役割を認識する
地域の文化を育てる	鳴子町特有の温泉資源を活用する
	地域の食文化の創出する
	ダムを共有の資産ととらえPRする
地域の環境を守る	水力や地熱発電などの環境を活用する
	豊かな自然環境の保全と森林資源を活用する
	農村環境や農村の景観を守る
まちづくりのために	まちづくりキーマン・横の連携も密に交流する
	水源地域としてのあり方を上下流で考える
	ソフト展開などの資源・地域情報を共有し情報発信する

鳴子ダム水源地域ビジョン 第2回専門検討会

日時：平成17年10月6日（木）10:00～12:00

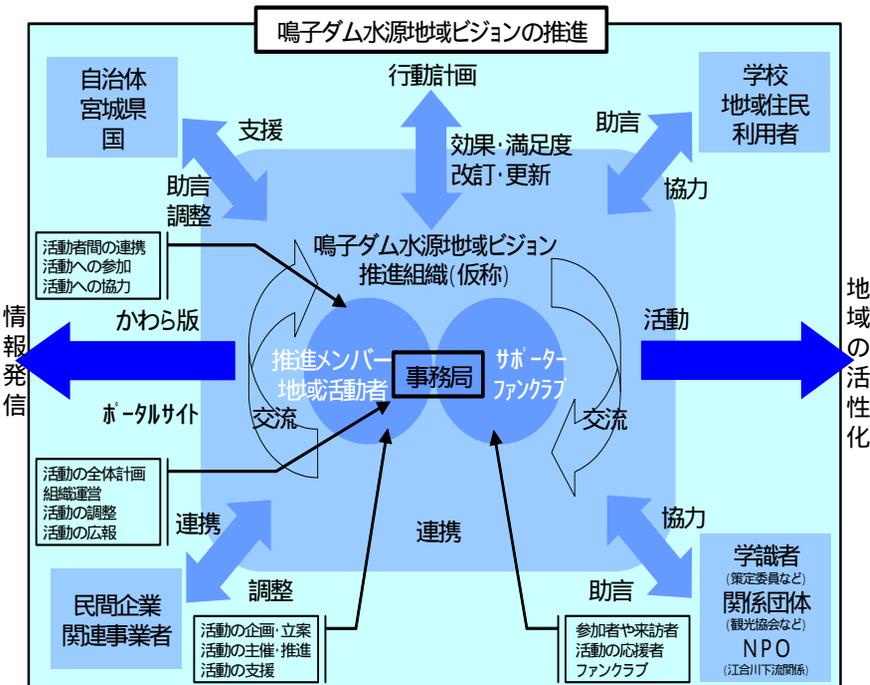
場所：鳴子ビューホテルかねちゅう

第1回専門検討会後の経過報告（策定委員会の意見集約、ビジョンの推進体制、広報活動（かわら版の発行）など）があり、鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念、ビジョン推進の仕組みづくりについて議論が行われました。ビジョンの推進等について右記のような意見がありました。

専門検討会は、ビジョンづくりの検討組織で、ビジョン骨子・交流連携方策、ビジョン推進について検討し、策定委員会に素案を示します。

第3回の専門検討会では、策定委員会への提言内容の最終とりまとめを行います。

鳴子ダム水源地域ビジョンの推進イメージ(案)



参加者の主な意見

(1) 鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念

- ・「鬼首」や「たゆとう」という表現は意見を付し委員会に報告。
- ・水源地域は江合川上流の現鳴子町として考える。

(2) ビジョンの推進について

1) 既存組織やそれぞれのつながりについて

- ・行動力のある組織とビジョン推進のつながりをもつ。
- ・地域活動者の取組みを尊重しビジョンの推進を図る。
- ・新たに組織を立ち上げると既存組織の活動が鈍る。

2) ビジョン推進の活動について

推進組織のあり方

- ・パンフを旅館に設置するなど無理のない活動もある。
- ・各組織をコーディネートする仕組みが必要。
- ・観光業、グリーンツーリズムが連携しながら情報発信する。
- ・開かれた活動と若者が入りやすい組織づくりが必要。
- ・地域内外の交流のための接点(人、拠点)をつくる。

ビジョンの応援、推進による交流・連携

- ・地域の良さは地域外の人の方が気づく。
- ・地域外の人々の意見を聞いたり活動に参加してもらう。
- ・地域内外の交流により、お互いのよさをわかちあう。
- ・水源地域は下流の人たちにとっても大事なもので、**新大崎市誕生により、ビジョン推進の共通認識**をもつ。
- ・ファンクラブやサポーターに**ビジョン推進を応援**してもらう。

3) 事務局などの運営

- ・多数の組織と調整する事務局の負担は大きい。事務局との調整のもと各組織が連携して取り組む。

- ・活動拠点は、**上流域から立ち上げて**はどうか。

4) 地域を元気にするために

- ・地域の良さを再発見して誇りをもち地域を元気に、**地域づくりにふれ、地域の良さを**知ってもらう。
- ・**地域が主体**となり、ゆったりとした気持ちで活動する。
- ・ふだんから参加できるような仕組みをつくる。合併1市6町の**7色の虹の「一色」**をつくる意識で。
- ・「**つきあい能力(接し方)**」をうまく**地域づくりに活かす**。
- ・鬼首中学校の**廃校後の利用**を検討する。

(3) その他

- ・荒雄川神社祭典で理想的な地域像がみえる。
- ・イベントはテーマを持たせ引っ張れる魅力を創る。

鳴子ダム水源地域ビジョン 第3回専門検討会

日時：平成17年11月9日（水）9:30～12:30

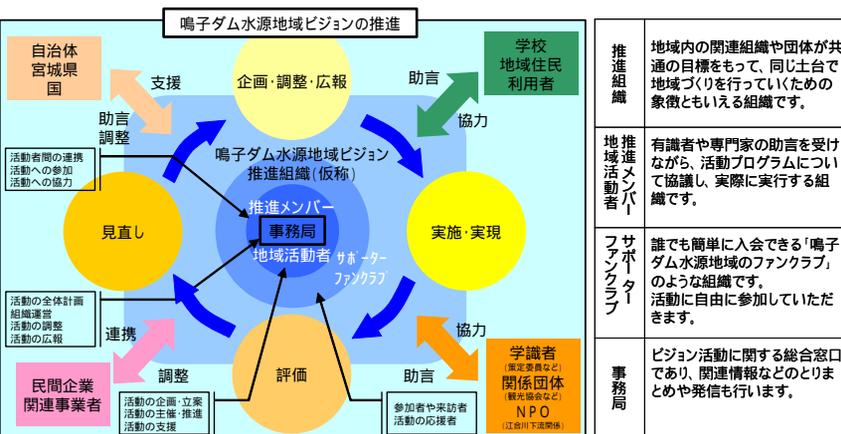
場所：鳴子ビューホテルかねちゅう

第2回専門検討会後の経過報告（策定委員会の意見集約、ビジョンの推進体制、広報活動（かわら版の発行）など）があり、鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念、ビジョン推進の仕組みづくりについて議論が行われました。ビジョンの推進等について右記のような意見がありました。

鳴子ダム水源地域ビジョンの基本理念（案）

ほうじょう
豊饒なる大崎の耕土をうるおす江合川のながれ、堂々たる鬼首の山なみ・鳴子ならではの文化・風土・資源をいかし、多彩で魅力的な活動、地域内外との交流・連携により、環境に調和した持続的な水源地域のまちづくりをすすめる。

鳴子ダム水源地域ビジョンの推進イメージ（案）



参加者の主な意見	
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> 基本理念は、わかりやすくなった。 専門検討会の案としては了承された。 鳴子ダム水源地域ビジョンは、鳴子町や鬼首地区の地域のありようについて議論されているが、これをうまく「大崎市におけるビジョン」につなげていければよい。
ビジョンの推進など	<p>取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> まちの資源、いいところ、魅力を知ると次の展開が見えてくる。 鳴子町内で観光に携わる人も参加できる仕組みが必要。 地域がもっと関わり、ゆっくりに足を付けて地域づくりを進めていく。
	<p>交流・連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域と来訪者が交流できる仕組みがほしい。 来てよかった。住んでよかった。と「よかった」を共有できればよい。
	<p>サポーター</p> <ul style="list-style-type: none"> かわら版などによりサポーターに情報発信を行い、鳴子地域に興味を持ってもらい、さまざまなイベントなどに参加していただく。
	<p>鳴子ダム</p> <ul style="list-style-type: none"> 竣工50周年を期に鳴子ダムをアピールする映像や絵本等、インパクトのある取り組みをしてほしい。 鳴子ダムの職員は、異動後もサポーターとして活動してほしい。 ダムを守っている管理所の活動をアピールしてはどうか。
	<p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域が主体に取組まないと活動が定着しない。 人と人との交流がエネルギーになる事務局のあり方が望ましい。 事務局は各組織間の連携型が望ましい。 子ども達にも参加してもらうため、学校や先生にも参加してほしい。 鬼首中学校を活用した「大崎山里の学校」や「地域づくり」学校として拠点化してはどうか。
広報	<ul style="list-style-type: none"> 鳴子町は外向きの広報については活発に行われているが、内向き（鳴子町内）にうまく情報が伝わっているか、内向きの連携に貢献しているかは、まだ不十分などところがある。 マスコミの影響力は高いが、マスコミの発信する情報と地元の意識が伴っていない。 ダムは水を貯める。地域は情報や暮らし、文化を貯める。それを放流（情報発信）する。 かわら版は、お年寄りや小・中学生にも分かりやすい内容にする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 釜房ダム水源地域ビジョンの推進組織「100年ビジョンかわさき」の運営についてヒアリングする。 四国地方にある(株)四万十ドラマについて情報収集する。

鳴子ダム水源地域ビジョン専門検討会での協議内容

		第1回専門検討会	第2回専門検討会	第3回専門検討会
基本理念		<ul style="list-style-type: none"> ・大崎市における鳴子、水源地域というビジョンを明確にする ・計画づくりも重要だが展開していくことがさらに重要 	<ul style="list-style-type: none"> ・「鬼首」や「たゆとう」という表現は修正してはどうか。 ・水源地域は江合川上流の現鳴子町として考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門検討会の案としては了承された。 ・鳴子ダム水源地域ビジョンは、鳴子町や鬼首地区の地域のありようについて議論されているが、これをうまく「大崎市におけるビジョン」につなげていければよい。
ビジョンの推進など	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンツーリズムと温泉宿泊を組み合わせたパッケージで農業と観光相互の連携を図る ・旅館のニーズ(需要)と農林業のシーズ(供給)を調整し流通ルートをつくる ・活動が縛られない組織づくりも必要 ・そば、ブルーベリーなど地元食材を使ってしかけていく ・湯治客の健康食材パックに地元食材を利用 ・県内一美味しい豚肉を地域ブランドにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さを再発見して誇りをもち地域を元気に。 ・地域づくりにふれ、地域の良さを知ってもらおう。 ・地域が主体となり、ゆったりとした気持ちで活動する。 ・ふだんから参加できるような仕組みをつくる。 ・合併1市6町の7色の虹の「一色」をつくる意識で。 ・「つきあい能力(接し方)」をうまく地域づくりに活かす。 ・鬼首中学校の廃校後の利用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のまちの資源、いいところ、魅力を知ると次の展開が見えてくる。 ・鳴子町内で観光に携わる人も参加できる仕組みが必要。 ・地域がもっと関わり、ゆっくり地に足をつけて地域づくりを進めていく。
	交流連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動者相互の横断的な連携が必要 ・地域外から応援団として参加してもらおう ・水源地域は江合川流域全体の共有財産 ・上下流が連動するプログラムをつくる ・下流地域の特徴(岩出山の歴史風土や古川の農業など)をビジョンに反映する 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の良さは地域外の人の方が気づく。 ・地域内外の交流により、お互いのよさをわかちあう。 ・水源地域は下流の人たちにとっても大事なので、新大崎市誕生により、ビジョン推進の共通認識をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と来訪者が交流できる仕組みがほしい。 ・来てよかった。住んでよかった。という「よかった」を共有できればよい。
	サポーター		<ul style="list-style-type: none"> ・地域外の人々の意見を聞いたり活動に参加してもらおう。 ・ファンクラブやサポーターにビジョン推進を応援してもらおう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かわら版などによりサポーターに情報発信を行い、鳴子地域に興味を持ってもらい、さまざまなイベントなどに参加していただく。

鳴子ダム水源地域ビジョン専門検討会での協議内容

		第1回専門検討会	第2回専門検討会	第3回専門検討会
ビジョンの推進など	鳴子ダム	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者が楽しめる渓流釣りゾーンをつくる ・発眼卵放流など鬼首独自の釣りの形態を確立する 		<ul style="list-style-type: none"> ・竣工50周年を期に鳴子ダムをアピールする映像や絵本等、インパクトのある取り組みをしてほしい。 ・鳴子ダムの職員は、異動後も鳴子のサポーターとして活動してほしい。 ・ダムを守っている管理所の活動をアピールしてはどうか。
	事務局		<ul style="list-style-type: none"> ・行動力のある組織とビジョン推進のつながりをもつ。 ・地域活動者の取組みを尊重しビジョンの推進を図る。 ・新たに組織を立ち上げると既存組織の活動が鈍る。 ・各組織をコーディネートする仕組みが必要。 ・開かれた活動と若者が入りやすい組織づくりが必要。 ・地域内外の交流のための接点(人、拠点)をつくる。 ・多数の組織と調整する事務局の負担は大きい。 ・事務局との調整のもと各組織が連携して取り組む。 ・活動拠点は、上流域から立ち上げてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域が主体に取組まないと活動が定着しない。 ・人と人との交流がエネルギーになるような事務局のあり方が望ましい。 ・事務局は各組織間の連携型が望ましい。 ・子ども達にも参加してもらうために、学校や先生にも参加してほしい。 ・鬼首中学校を活用した「大崎山里の学校」や「地域づくり」学校として拠点化してはどうか。

鳴子ダム水源地域ビジョン専門検討会での協議内容

		第1回専門検討会	第2回専門検討会	第3回専門検討会
ビジョンの推進など	広報	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴子温泉駅にインフォメーションコーナーを設置 ・岩出山の道の駅や鬼っ子などからも情報発信する ・ホームページ相互にリンクを貼り情報の一元化を図る ・かわら版は継続して発行。ビジョンを町の広報誌にも掲載する 	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフを旅館に設置するなど無理のない活動もある。 ・観光業、グリーンツーリズムが連携しながら情報発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴子町は外向きの広報については活発に行われているが、内向き(鳴子町内)にうまく情報が伝わっているか、内向きの連携に貢献しているかは、まだ不十分なところがある。 ・マスコミの影響力は高いが、マスコミの発信する情報と地元の意識が伴っていない。 ・ダムは水を貯める。地域は情報や暮らし、文化を貯める。それを放流(情報発信)する。 ・かわら版は、お年寄りや小・中学生にも分かりやすい内容にする。
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・鬼首中学校の今後のあり方について広く意見交換し、利用するのであればその目的をハッキリさせ、検討組織をたちあげる。 ・山村学校、山学校として、蔓(つる)編みや田んぼ、畑を利用して活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒雄川神社祭典で理想的な地域像がみえる。 ・イベントはテーマを持たせ引っ張れる魅力を創る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・釜房ダム水源地域ビジョンの推進組織「100年ビジョンかわさき」の運営についてヒアリングする。 ・四国地方にある(株)四万十ドラマについて情報収集する。



インフォメーションコーナー

JR鳴子温泉駅にある大型モニター(写真のガラスの部分)

- 1:現在は内部に45インチのプラズマテレビがありますが使われておりません。過去に9連(3×3)の液晶テレビがありました。
- 2:このコーナーを利用して鳴子町や鳴子ダム水源地域ビジョンに係る情報を発信していこうと考えています。